

梅の花の宴

— 令和の源泉 —



令和という新たな時代が眩まりました。

年号の出典となったのは千三百年ほど前の万葉集の作品です。

奈良の都から遠く離れた大宰府で多くの人々が集まり、流麗な

序文と32首の歌が詠まれました。いずれも梅をテーマとして、

雪、柳や鶯などの美しい景色が詠まれています。万葉時代の人々

は、渡来植物である梅の花をどのように感じ、どんな作品をつ

くりあげたのでしょうか。作者たちは、どういった思いを抱え

ていたのでしょうか？

本講座では、序文が生まれた背景、作者とされる大伴旅人の生涯、梅と雪の表現を中心に考えていきます。

古代から現在へと時を超えた万葉集。幻想的な梅の花の宴の

世界に足を踏み入れてみませんか？



作者：日影ひろみ (sayanisaya) 梅の花の宴で詠まれた「我が園に梅の花散る ひさかたの天より雪の 流れ来るかも」(巻5・822番歌)をモチーフとした作品



【講師紹介】倉住 薫 (くらずみ・かおる)
福岡生まれ。國學院大學大学院にて博士(文学)取得。専門は日本上代文学。万葉集の歌をカタチ創るユニット sayanisaya としても活動中。主要業績：『柿本人麻呂 ことばとこころの探究』(笠間書院、2011年2月)。新海誠監督『言の葉の庭』万葉集監修、小説版では万葉歌の選定・注釈を担当。人麻呂歌集旋頭歌「天なる一つ棚橋―七夕歌の世界とのつながり―」(大妻国文、2018年3月)

日時：2019年10月31日(木) 午後6時30分～8時

開場：午後6時

会場：千代田区役所4階 401会議室

主催：大妻女子大学国文学会／千代田図書館

定員：30名(事前申込制、先着順)

参加費：無料

受付開始：2019年10月10日(木)

下記のいずれかの受付方法でお申し込みください。

1. 電話で申し込み(03-5211-4289、03-5211-4290)
2. 来館で申し込み(千代田図書館10階カウンター)

※電話および来館での受付時間は、平日の午前10時～午後5時までです。
 ※手話通訳が必要な方は、手話通訳をご希望の旨、10月21日(月)までにお申込ください。
 ※ご都合が悪くなった場合はなるべくお早めにお電話でご連絡をお願いいたします。
 ※開催について変更などが生じた場合には電話でご連絡させていただきます。
 ※夜間までの講演のため、16歳未満の方は保護者同伴をお願いいたします。



千代田区立 千代田図書館

東京都千代田区九段南1-2-1 千代田区役所本庁舎9階

アクセス 東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線
「九段下」駅下車4番または6番出口から徒歩5分